

コロナ禍を起因とした 困窮事例調査報告（第2回）

2022/4/18



全日本民主医療機関連合会

調査概要 ①

1. 事例収集目的

長期化するコロナ禍により、深刻化している地域の困窮実態を事例で収集し、国の責任において、社会保障制度の拡充、公的支援の強化が急務であることを明らかにするため、全日本民医連加盟事業所に向けて報告を呼びかけた。

2. 報告対象事例

「コロナ禍を起因として困窮に至った事例」とし、以下を対象とした。

- ① 各事業所(医科、歯科、介護、薬局等すべてを対象)でかかわった患者、利用者、その家族等に関わる事例
- ② 事業所周辺地域を対象として実施しているコロナに関わる生活相談や電話相談に寄せられた事例等

調査概要 ②

3. 提出方法

「コロナ禍を起因とした困窮事例(報告書)」に記入し、事業所、法人、県連を通じて全日本民医連にメールで提出することとした。

4. 実施期間

2020年10月1日～2021年12月末までに遭遇した事例

調査概要 ③

5. 集約状況

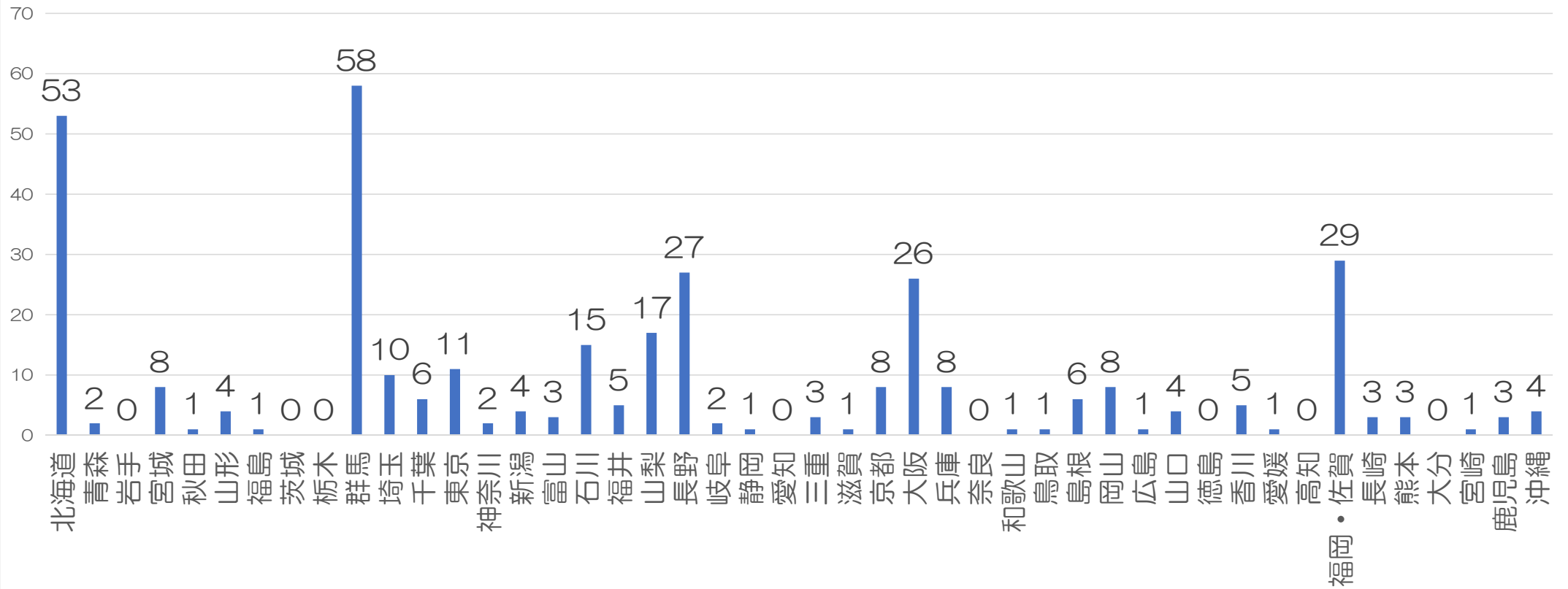
409事例(ただし、当発表には、経済困窮を伴う346事例を抽出)

6. 個人情報取扱いについて

報告書には個人名、生年月日など個人が特定される情報を記載しないこと、また、発表にあたって個人が特定されないことがないよう配慮することとした。

なお、各事業所において、事例提出にあたっては、それぞれの法人・事業所の個人情報取扱い等の規定に従うこととした。

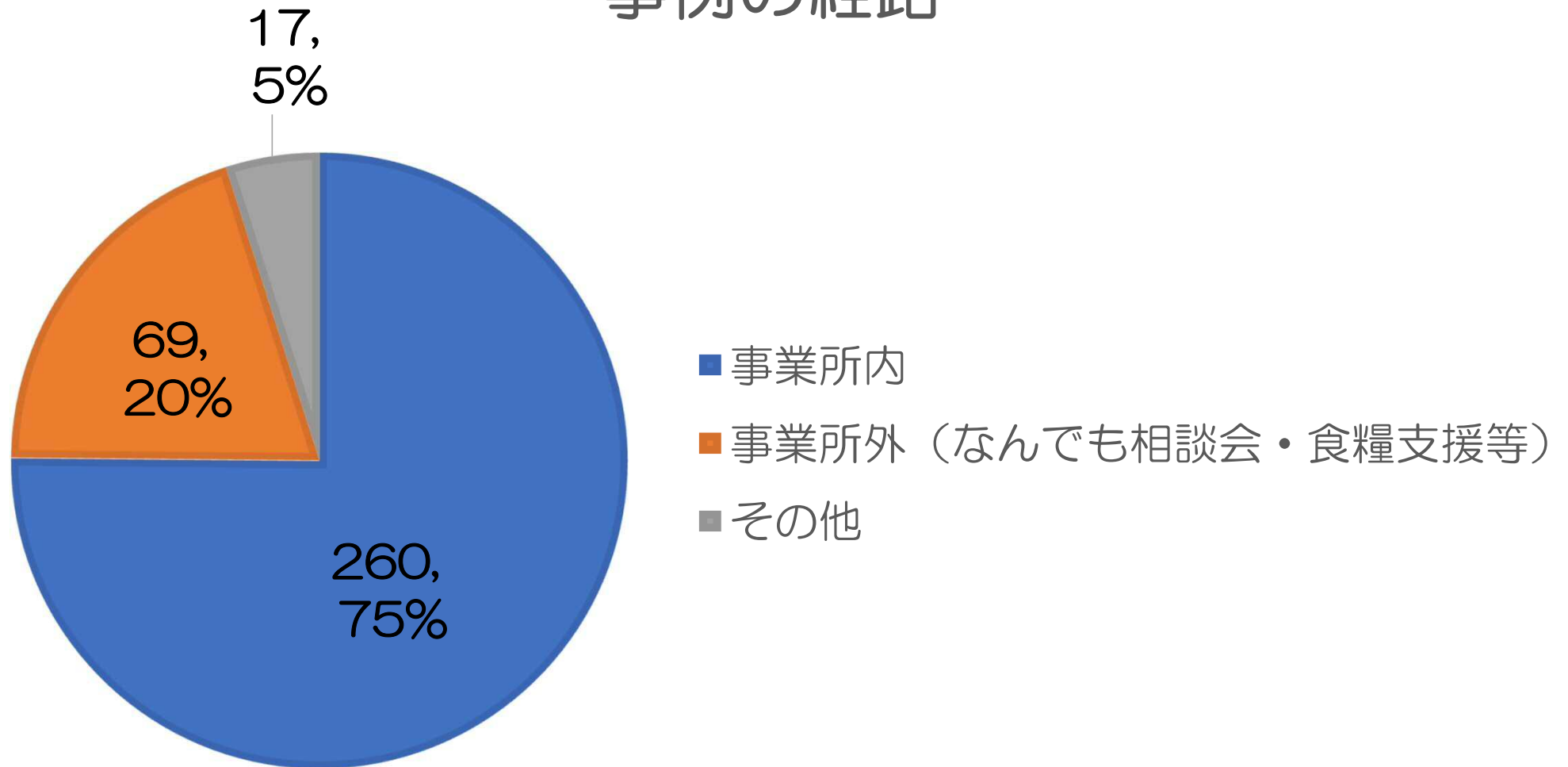
県連別報告数（総数346件）



《事例の抽出》

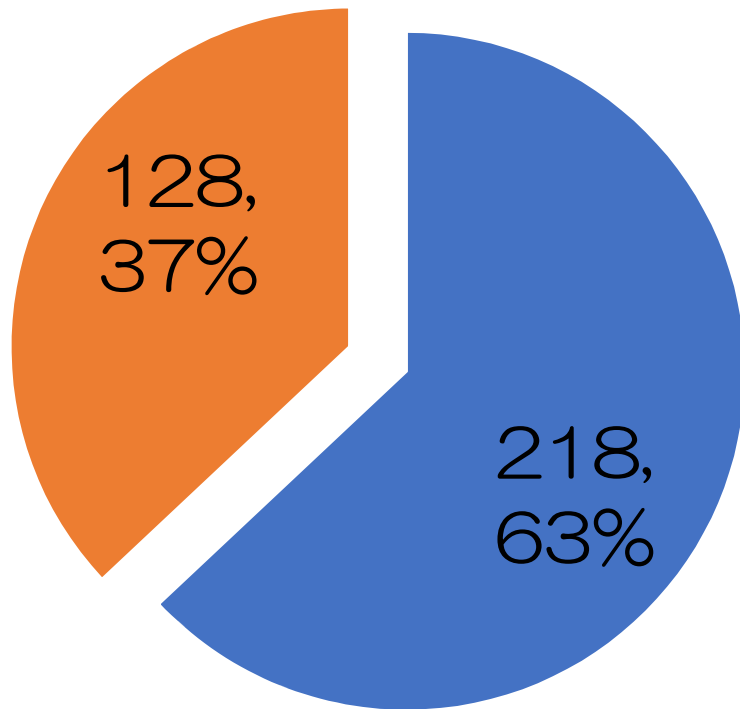
全409事例の中から、コロナ禍による本人、または家族の経済的困窮を伴う事例を抽出し、**346事例**にしぼり、集計を行った。

事例の経路



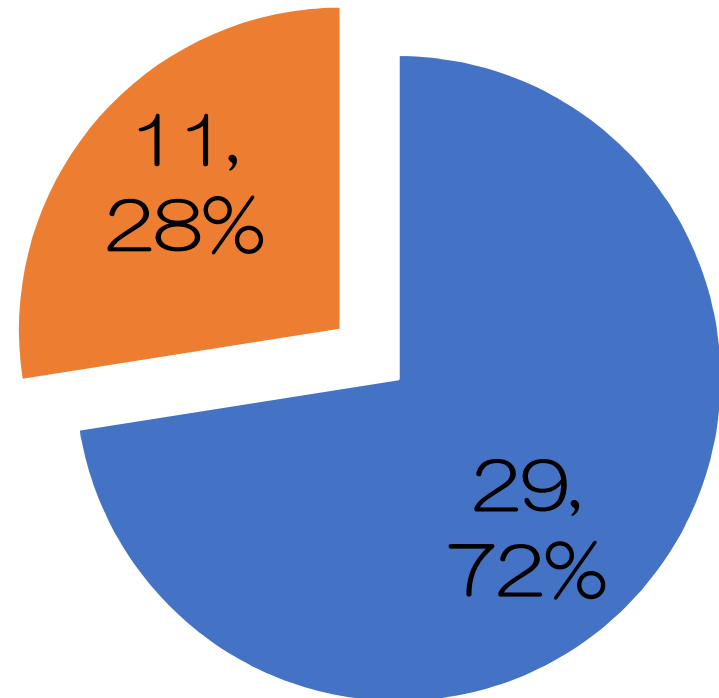
409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

男女の割合



■ 男性 ■ 女性

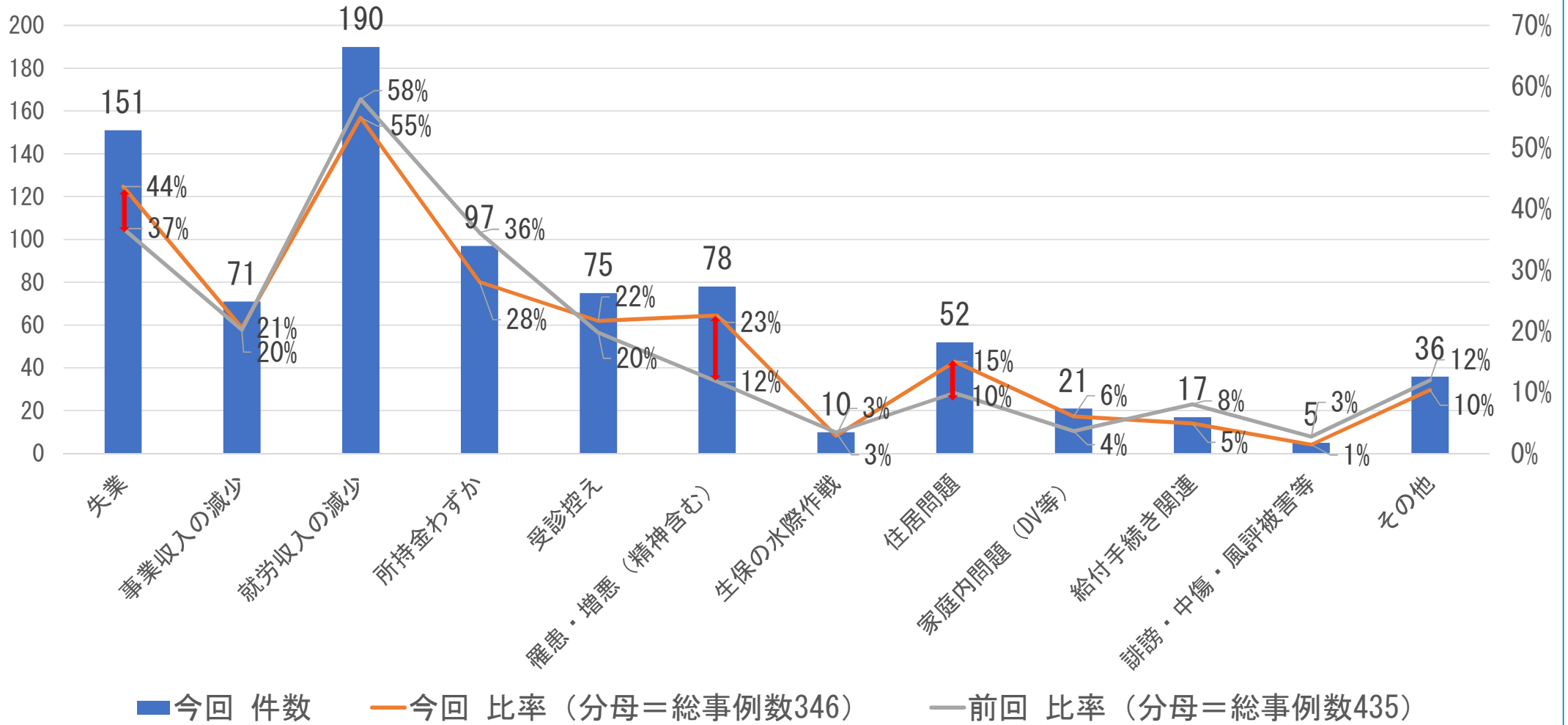
2020経済的事由による手遅れ死亡事例調査 (参考) 男女の割合



■ 男性 ■ 女性

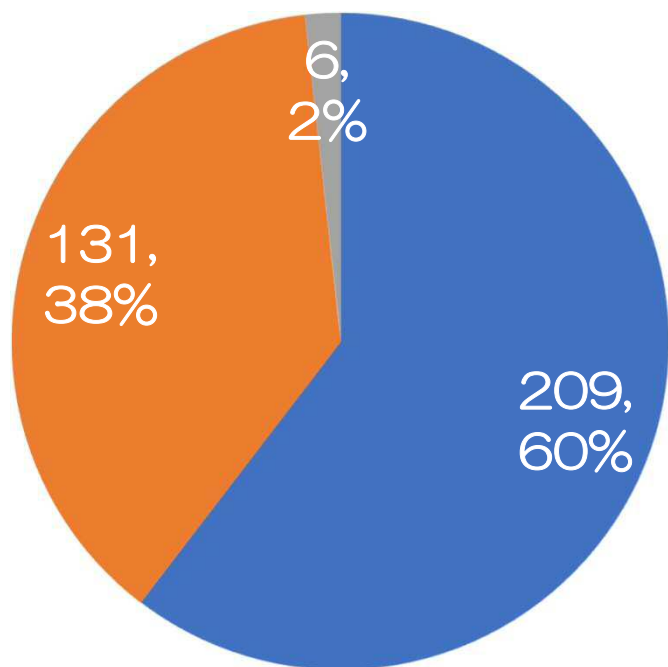
409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

事例に該当する事象 ※複数回答可



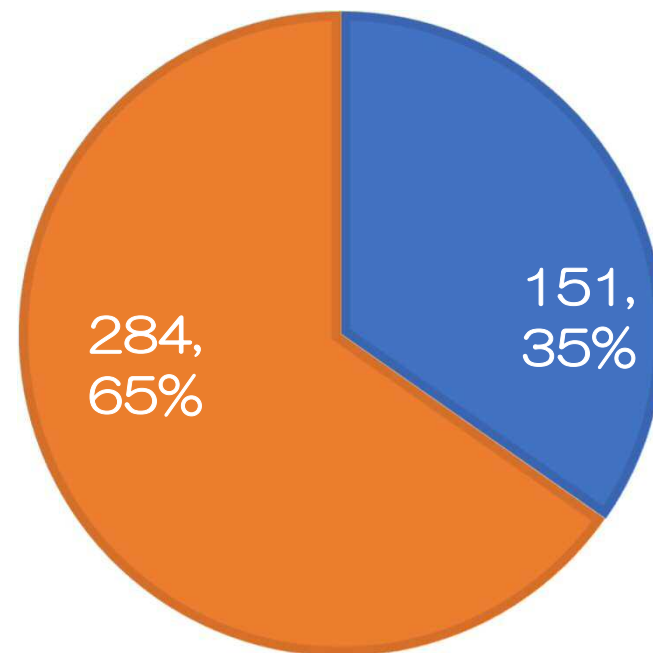
409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

無料低額診療事業の利用状況
(今回調査)



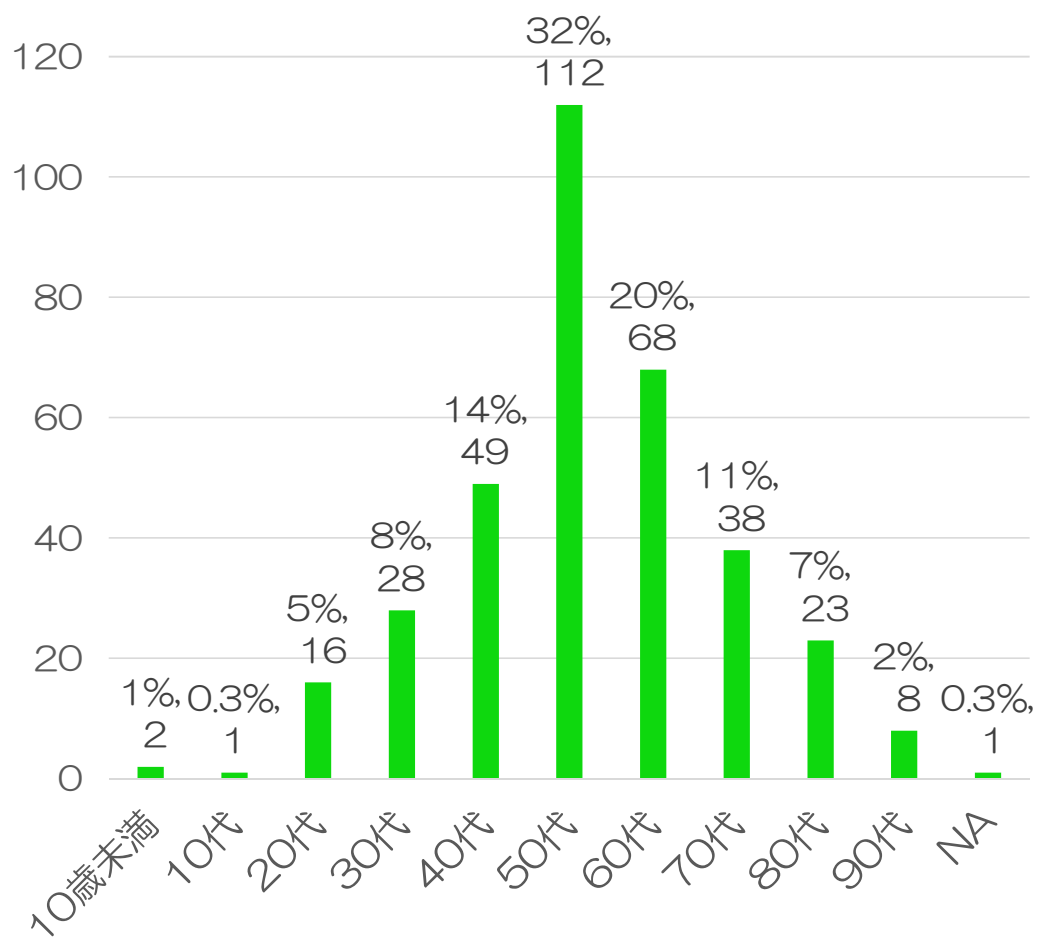
■有 ■無 ■NA

無料低額診療事業の利用状況
(前回調査) 2020年10月



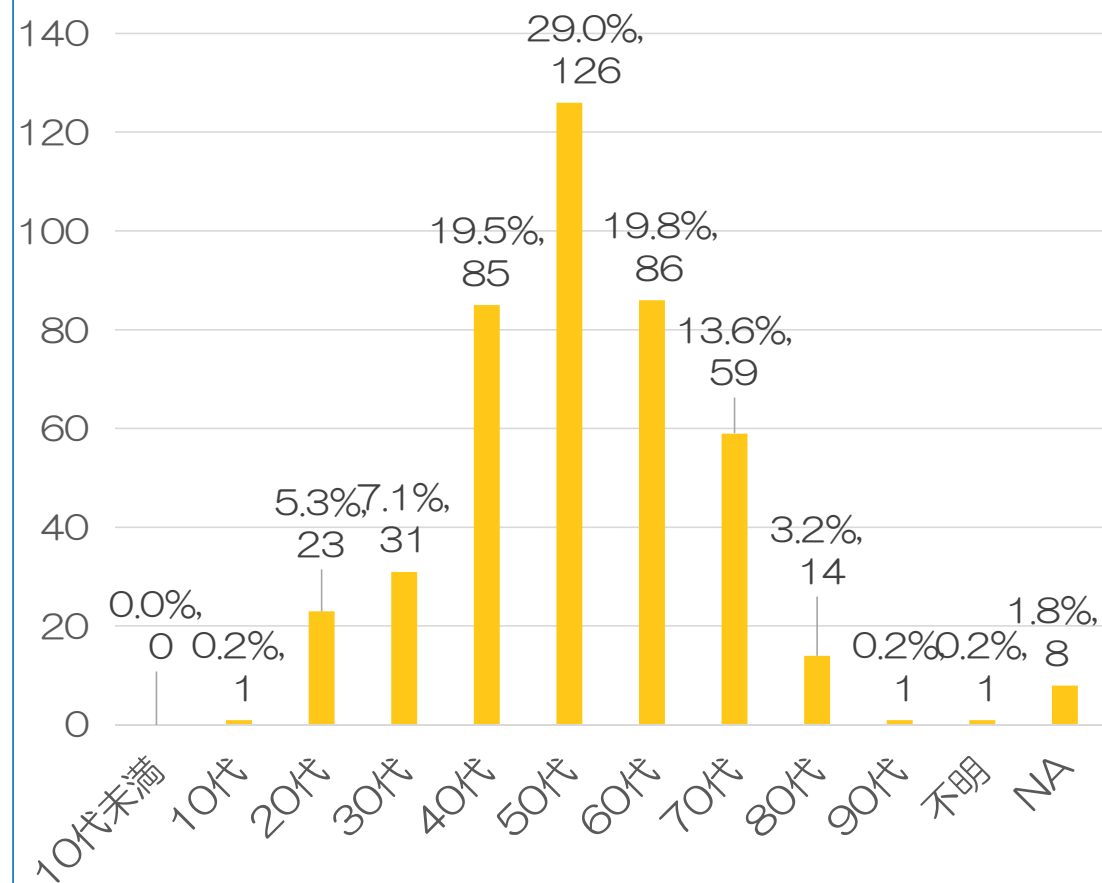
■無低利用 (希望) ■利用 (希望) なし

事例の年齢層



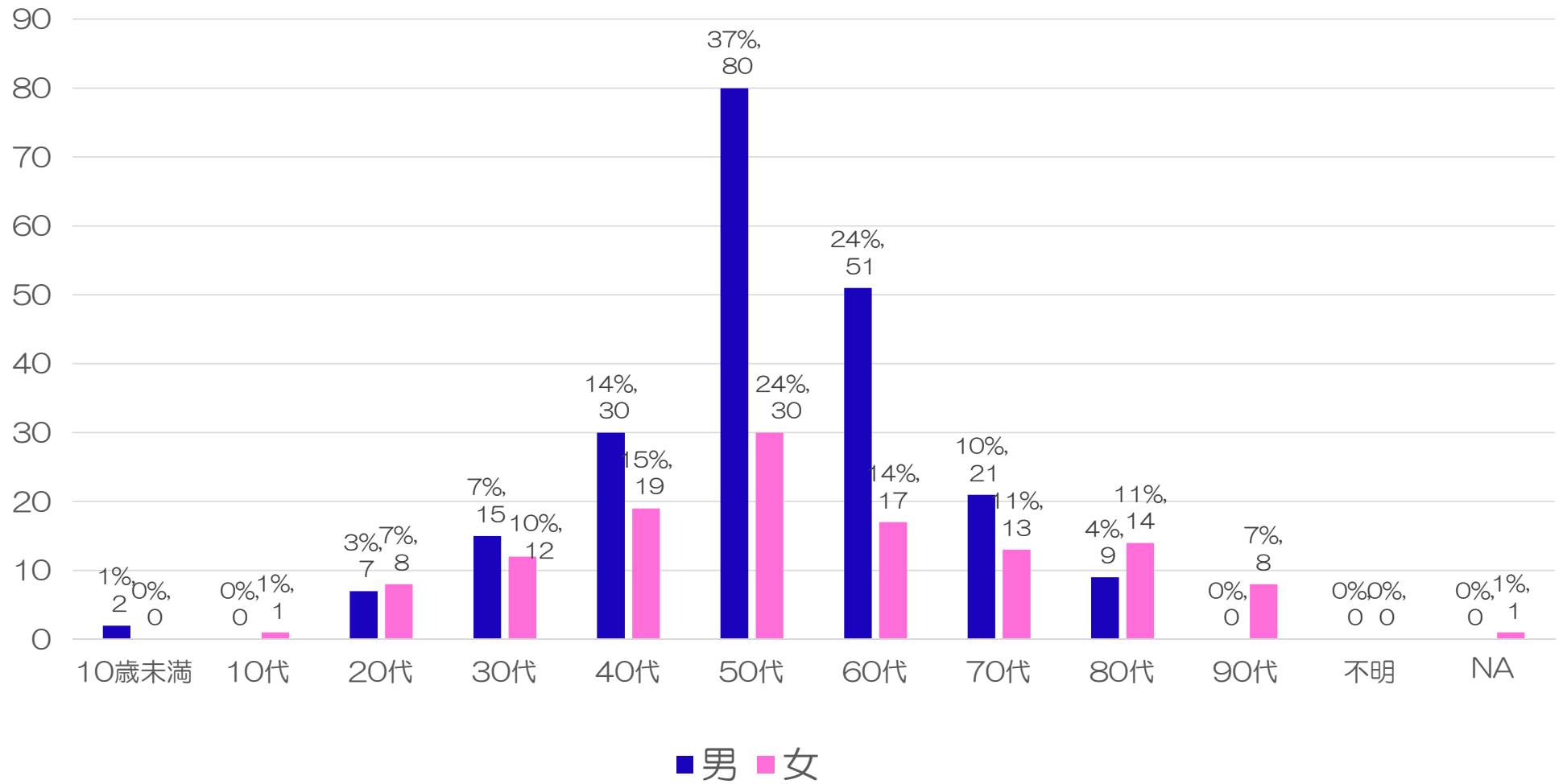
(参考) 事例の年齢層

前回調査 2020年10月発表

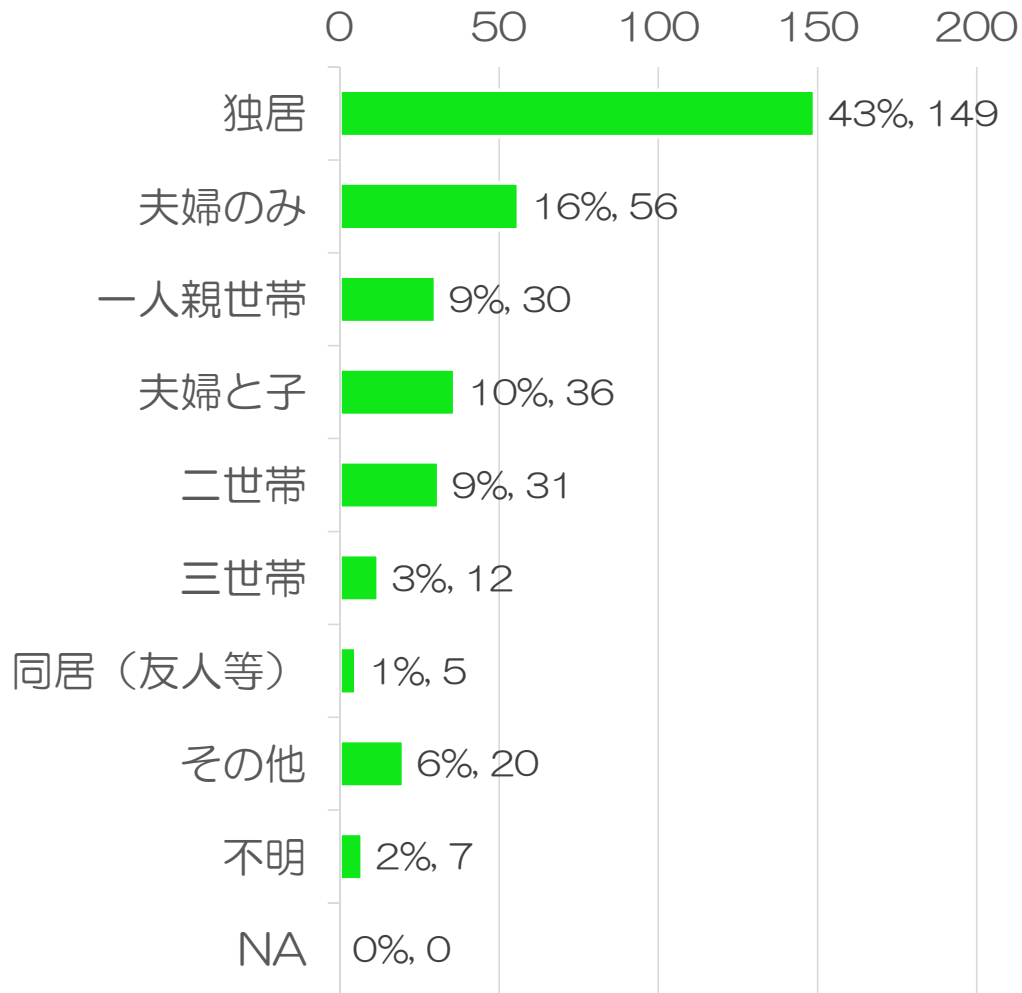


409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

男女別 事例の年齢層

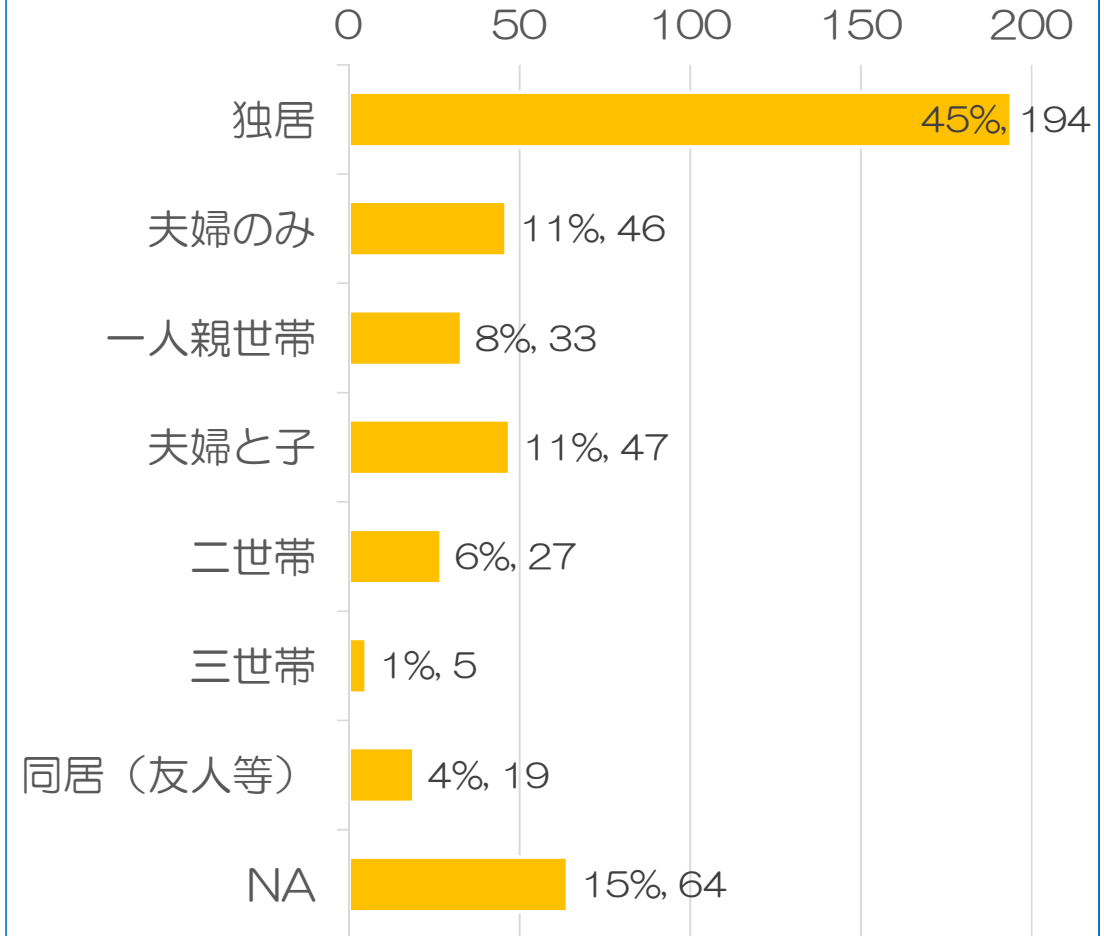


家族構成



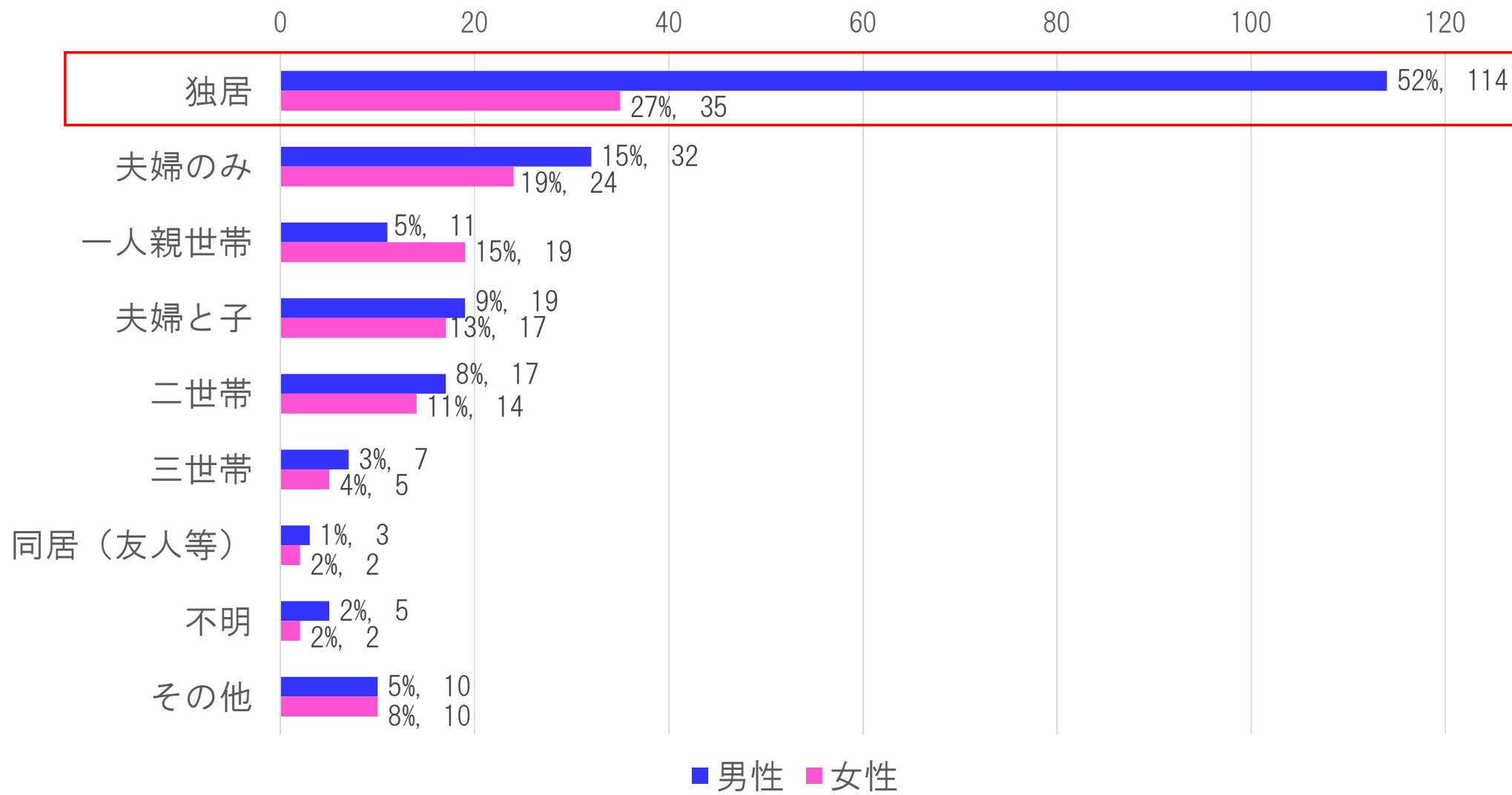
(参考) 家族構成

前回調査 2020年10月発表

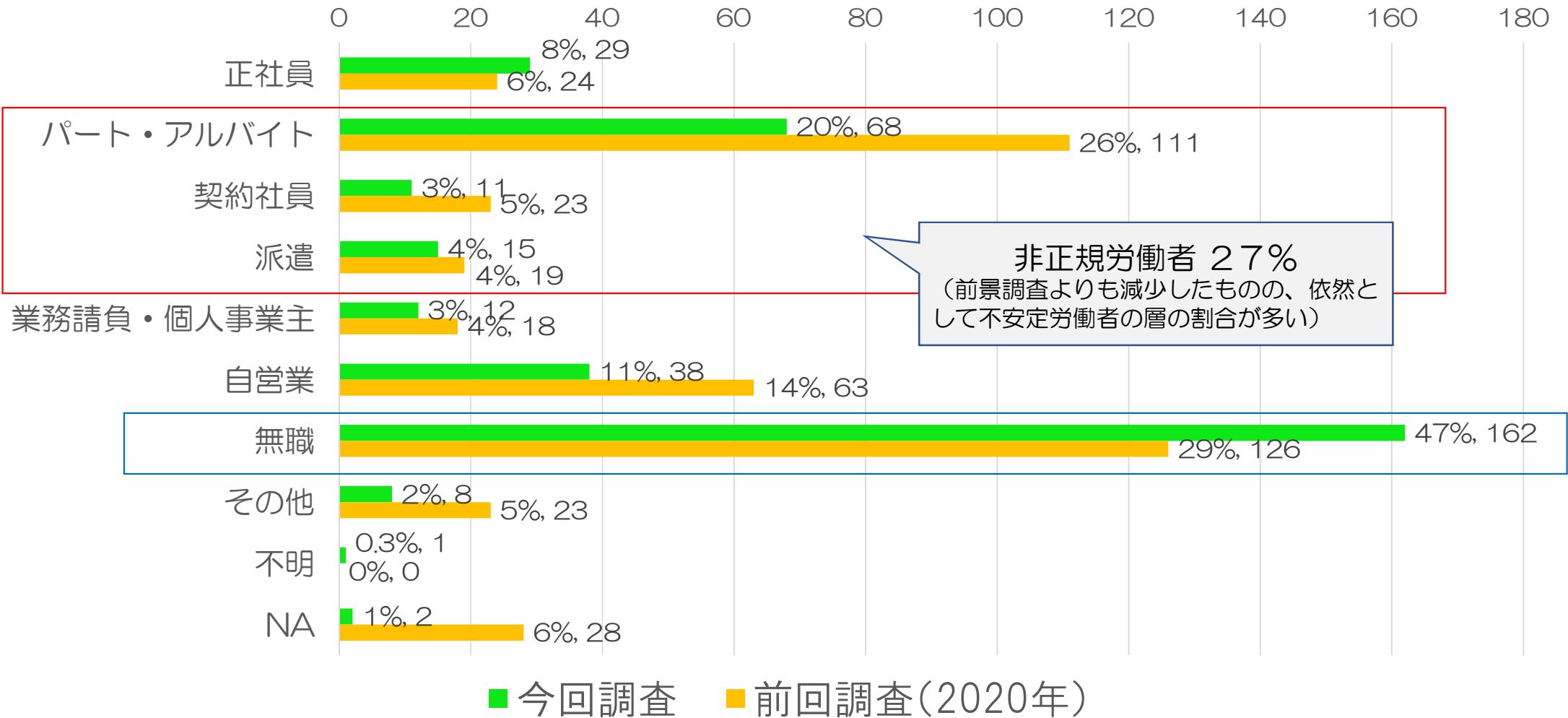


409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

男女別家族構成（比率・実数）



職業【前回調査（2020年）との対比】



409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

《事例1》

■非正規雇用・一人親世帯

【30代、女性、パート・アルバイト】

2020年12月、発達障害の子どもの主治医より、「母が不眠を訴えているので事情を聴くと、家賃滞納で、年内に立ち退きを迫られているようだ」とSWに紹介。

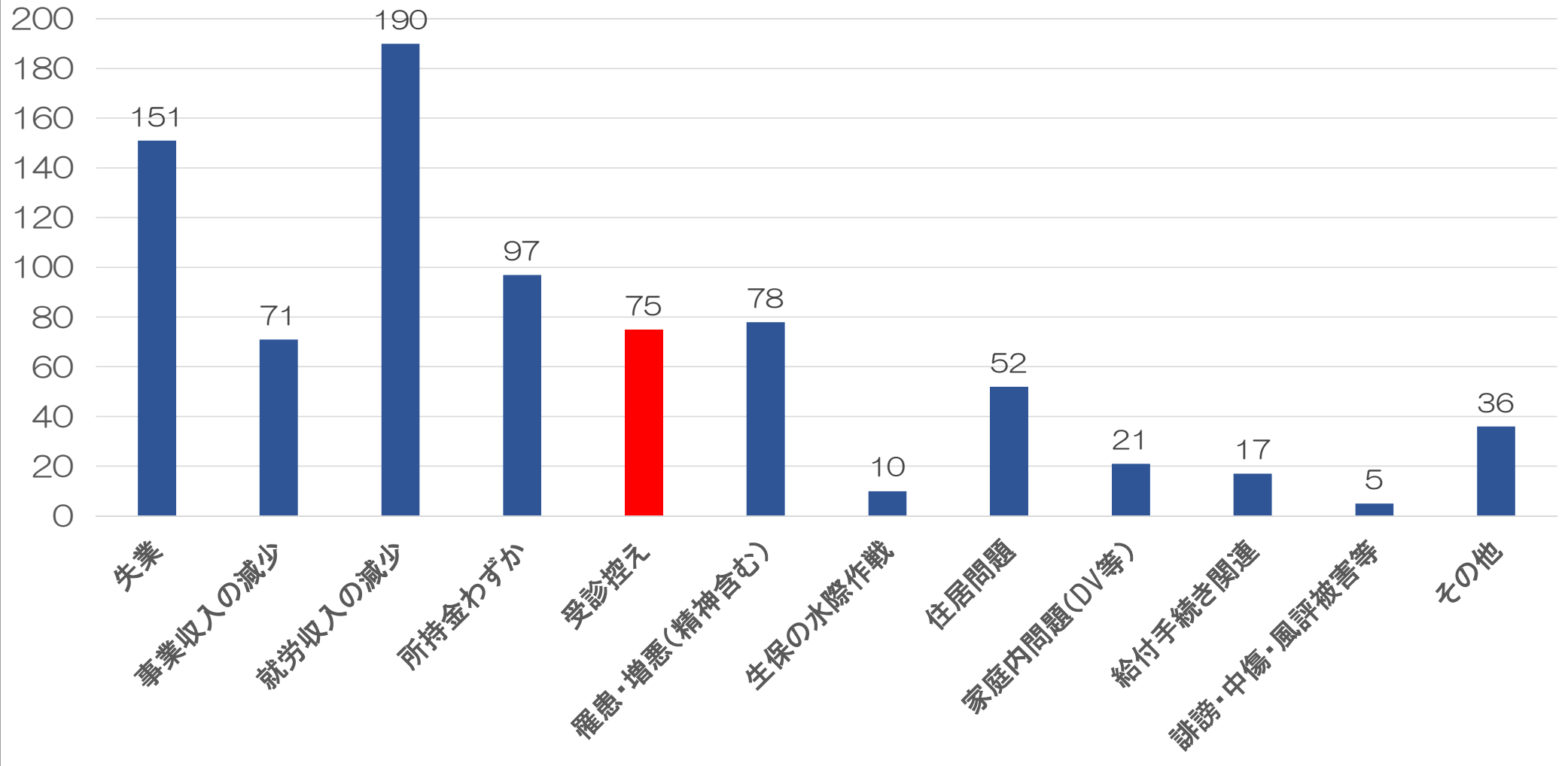
離婚後5人の子どもをダブルワークで育ててきた。コロナ禍で、飲食系の仕事が全くなくなり、コロナ特例の給付金などすべて利用しつくしても、家賃・水道・ガス料金など支払えず滞納。

退去は裁判所を通して、アパートの管理機構より訴えられている。市に生保の相談したが車を保有しており、申請には至っていない。

コロナ特例で、車を持っていても生保を受けられること、転居の費用が支給されることなど情報提供。直ちに申請。しかし、子どもから、生保に対して激しい反対（扶養調査や家庭訪問に抵抗感）があったのと、車の保有は認められるものの、用途が事細かにお制限される説明を受け、ご本人も、生保申請をあきらめ、取り下げ。

転居の費用を親族、その他から借りて転居。

事例に該当する事象 ※複数回答可



409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

《事例2》

■受診控え

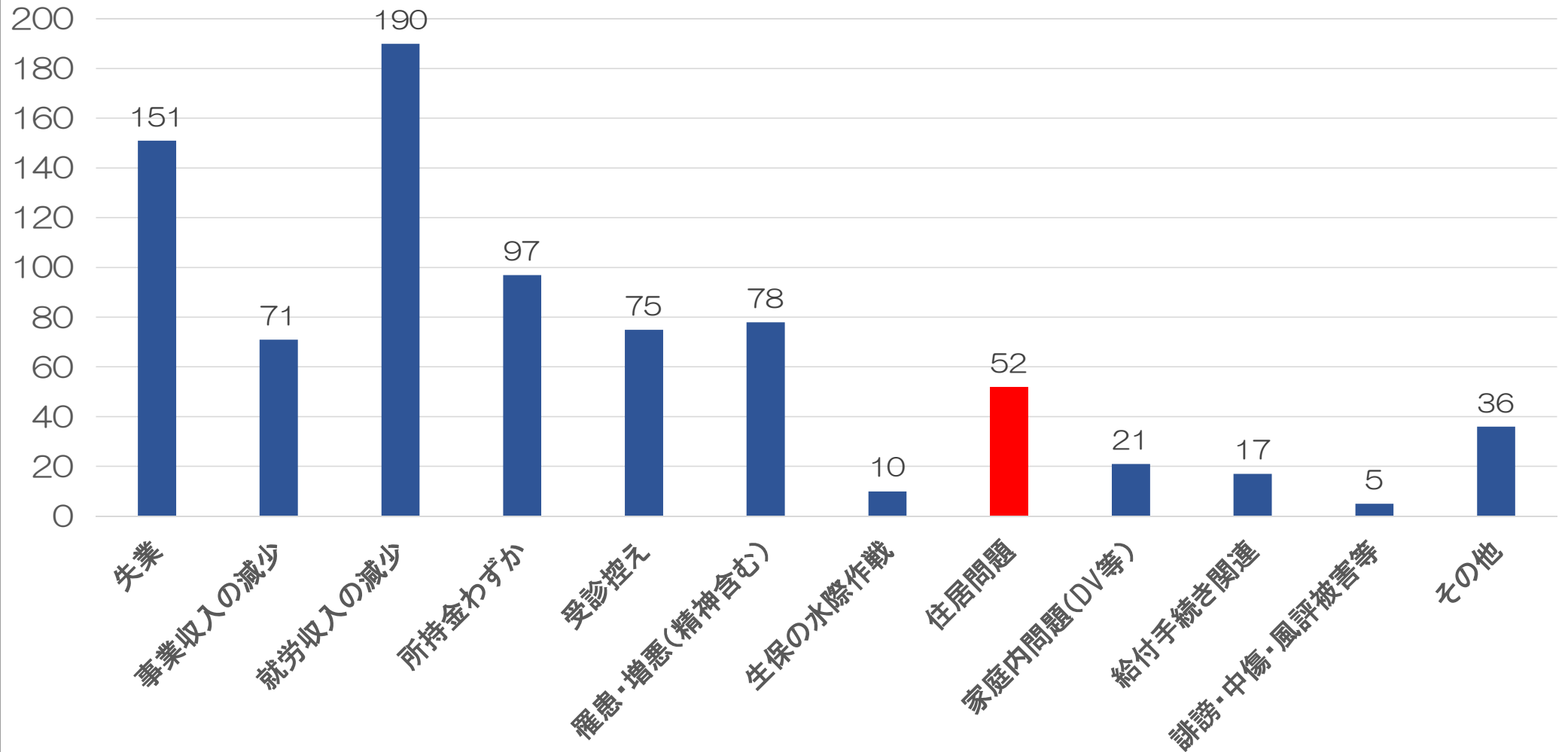
コロナ禍で収入が減り、受診控えをし、手遅れとなったがん患者
【60代男性、パート・アルバイト、独居】

施設当直と鶏卵会社でのアルバイトをしながら生計を立てていた。コロナの影響で鶏卵会社を解雇となり収入減。医療費の心配もあり、なかなか受診できず。

数ヶ月前より痛みが出現するも、痛み止めを内服しながら我慢していた。その後、歩行出来ない程の右腹部痛が増強。2020年10月に受診。

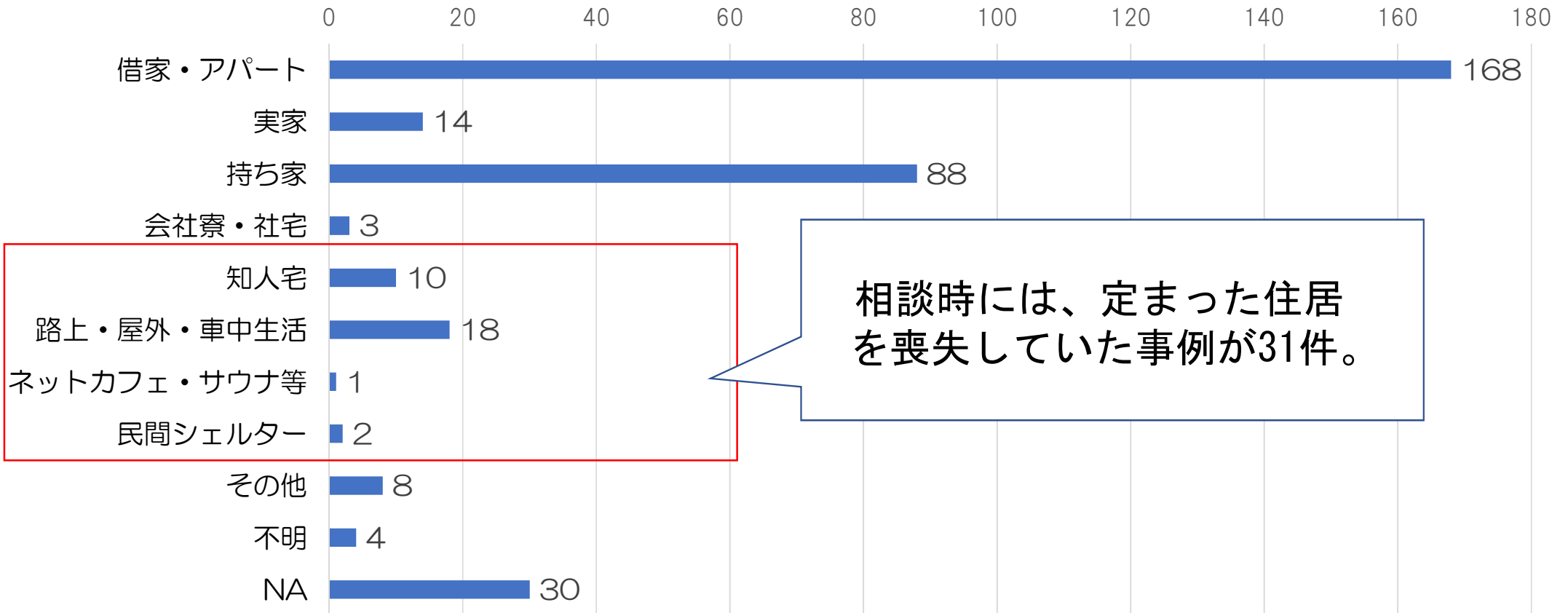
検査の結果、胃癌、転移性肝癌の診断で緊急入院。手術困難で化学療法を開始、その後、入退院を繰り返しながら治療継続するも2021年3月永眠。

事例に該当する事象 ※複数回答可



409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

相談時の住居



《事例3》

■住居喪失

住居を失い、コロナ禍で仕事もなく、路上生活で凍傷となった事例

【40代男性、無職、路上生活】

2019年に仕事をやめて同居の親の介護をしていた。同年親が亡くなり、自宅が兄弟によって売却され住居喪失。ネットカフェに寝泊まりしながら日雇いの仕事で食べつないだが、その仕事もコロナ禍でなくなる。

相談時の所持金は15円。数日食事を摂っていなかった。水を飲んで生きていた。冬12月で公園や駅を転々とするも寒波が激しく、夜は凍死しないよう一晩中市内を歩いた。両足は既に凍傷の状態。

「歩きながら死に場所を探していた」「もう死ぬしかないという気持ちと死にたくない気持ちが両方あった」と本人。

深夜に路上に座っていたところを見回り訪問で発見。相談につながる。翌日、生保申請とアパート入居を支援。生保支給決定までの布団や食料支援、凍傷になっていた下肢の治療を支援。現在は生保受給しながら就職活動中。

《事例4》

■住居喪失

【50代、男性、無職、独居（ホームレス）】

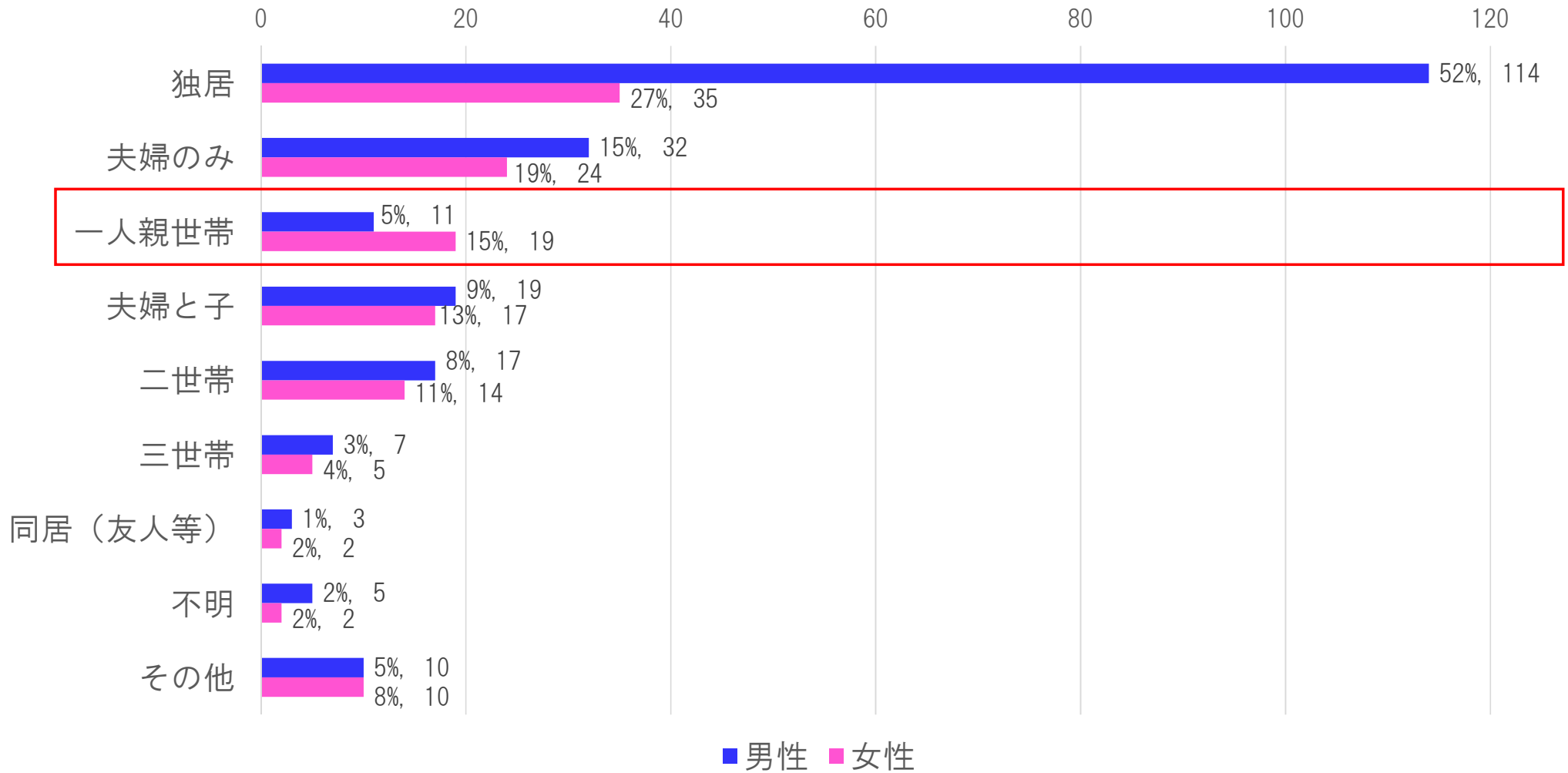
元大型トラックの長距離運転手。仕事中に事故を起こして退職。その後は、住居を失って派遣労働者として全国を転々と異動してきた。

2020年4月末に新型コロナの影響を受けて工場の生産ラインが止まると、解雇予告なしに突然解雇に。同時に会社の寮を追われる。その後ネットカフェに泊まりながら求職活動をするも住所がないため不採用が続く。

やがて所持金が尽き、ホームレスになり、所持金は12円。寒さが厳しい12月を路上で過ごし、絶食状態が数日続いた。絶望していよいよ死のうとしたところを警察官に発見され「あそこに行けば助かるかもしれない」と相談会にたどり着いた。

その日のうちに生活保護を申請してアパートに入居すると「久しぶりに布団で寝られる。1年前は会社の寮で箱根駅伝を見ていた」「コロナさえなければ。こんなはずではなかった」とうつむいた。

男女別家族構成



409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

《事例5》

■一人親世帯

【40代、女性、無職】

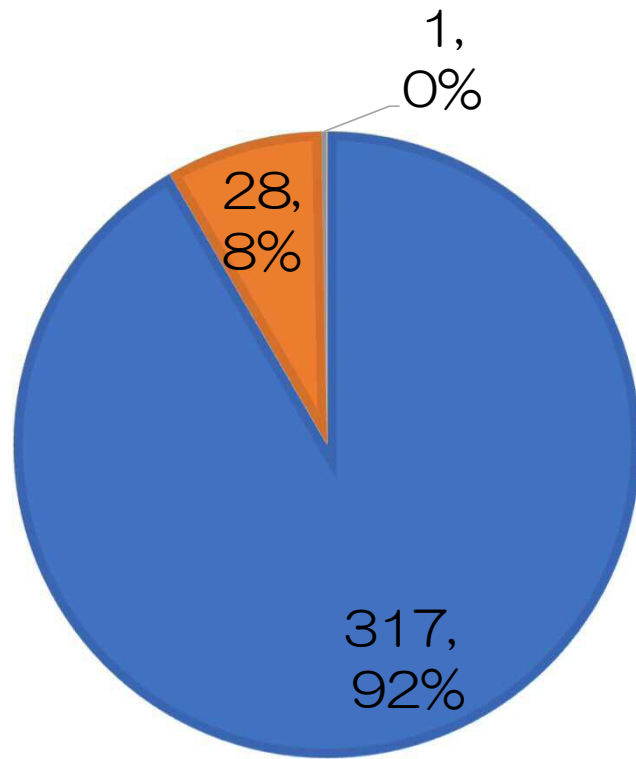
高校3年生の息子を抱える一人親。妊娠中に夫のDVが激しくなり離婚したが養育費もらえず、昼夜の飲食業をダブルワークで収入を得てきた。コロナ感染拡大ですべての仕事を失う。仕事探しをするもこれまで飲食業の経験しかなく、不採用が続く。やがて消費者金融や銀行カードの借金が300万円に増大。家賃は3か月滞納し、車も借金で差押えられる。相談時は食べ物がほぼなくなり体重が36kgに減少。

絶望して飛び降り自殺を企図した際に携帯が鳴った。それは母親の帰りが遅いのを心配した息子からの着信だった。残される子どものことを思うと死ぬことができず、チラシを見て相談にたどり着く。

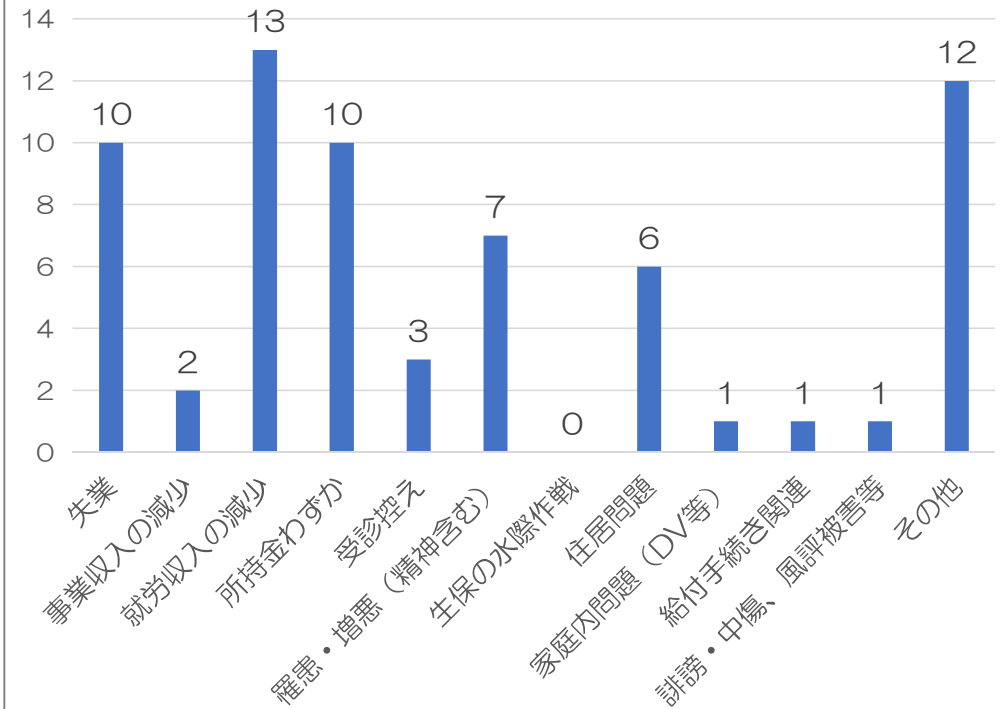
生活保護を申請。家賃の滞納分を大家に直接相談して、支払い猶予してもらい住居を確保した。法テラスの弁護士につなぎ自己破産。精神科病院への受診を開始する。食事がとれるようになり体重は40kgに回復。

外国人が占める割合

■ 日本国籍 ■ 日本国籍以外 ■ NA



外国人（28事例） 該当する事象



《外国人の事例の内容》

- ・ 日本に住む外国人医療費の問題
- ・ 就労ビザの喪失
- ・ パートナーが仮放免中（離婚しないと生保不可）
- ・ 妊娠・出産（帰国不可）
- ・ 母国ロックダウン等で帰国不可

《事例6》

■外国人

フィリピン国籍でコロナ禍で帰国できず分娩難民となった事例

【20代、女性、無職】

フィリピンから、ご主人と来日して妊娠。祖国のフィリピンで出産したいがコロナ禍で飛行機の費用も値上がりし帰国困難。日本人の友人宅に宿泊している。

分娩について、市に相談に行くがVISAが切れており、保険証が取得できず、市より無料低額診療の病院として当院を紹介される。保険証があれば、7割病院の収入になるが、保険証がないと全額当院の負担になるため、無低対応も厳しい。

都の「外国人未払医療補填事業」に相談するも、妊娠・分娩は、対象外。方々と相談の結果、都立病院が「未収金覚悟で受ける」と言ってくれる。

この他、30代の外国人の分娩を都立病院が受入れている事例も。独法化したら？

《事例7》

■外国人

【20代、男性、パート・アルバイト】

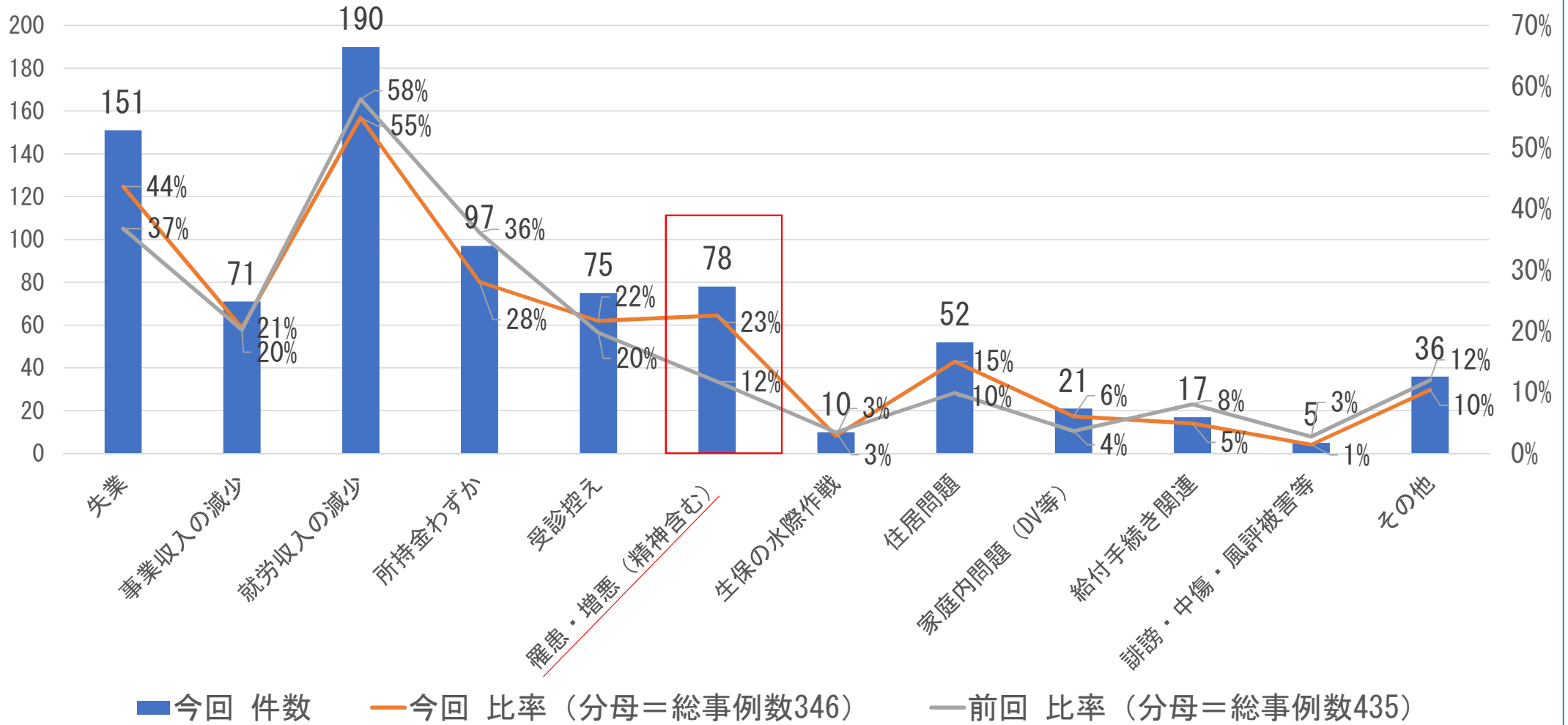
虫垂炎にて来院。3年前にネパールから来日された専門学校生。スーパーのアルバイトと母国からの仕送りで生計を維持していた。コロナ禍で仕事が激減。学費は仕送りで賄っていたが、ネパールがロックダウンとなり、家族からの送金が途絶えた。貯金無し。収入は生活基準以下。

入院費は無料低額診療事業を利用。

【40代、女性、契約社員】

フィリピン人。夫（インド人、仮放免中）、娘（小学3年）の3人暮らし。自身は在留資格がある。工場で働き娘と仮放免中の夫の生活費を賄ってきた。月50時間ほど残業して手取り22万円。しかし新型コロナの影響で自動車塗装の仕事がなくなり、出勤日数を減らされた後、突然解雇に。相談時、家賃、水光熱費を3か月滞納していた。市に生活保護を相談したところ、「仮放免中の夫と離婚・別居しない限り生活保護になれない」と言われた。

事例に該当する事象 ※複数回答可



409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

《事例8》

■コロナ後遺症の事例

家族でコロナ罹患し、医療費の捻出に影響を受けた事例

【80代、女性、無職、二世帯】

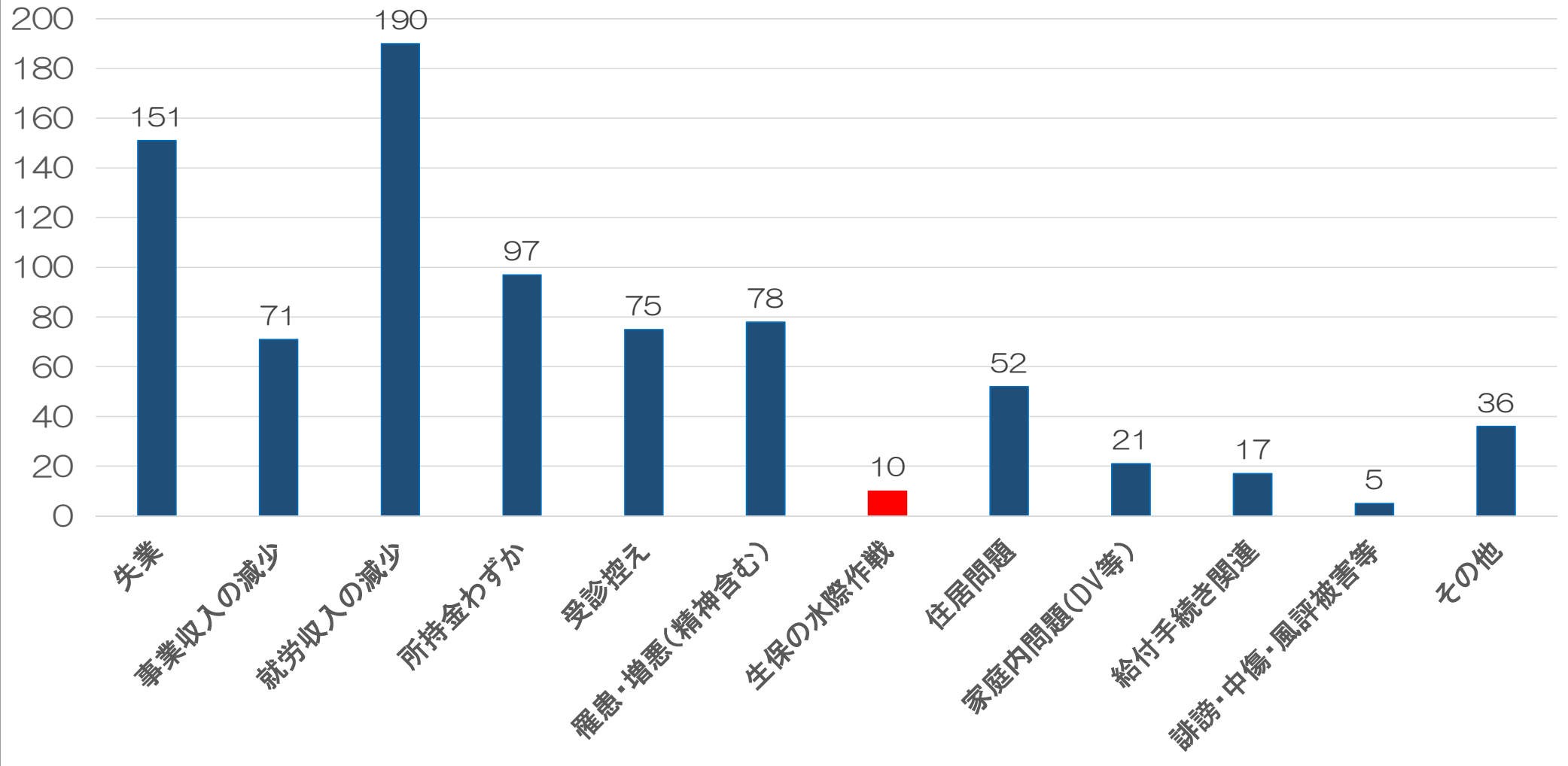
要介護状態の母親は低年金であるため、同居の息子夫婦が支援をしながら生活されていたが、家族全員がコロナ罹患。息子夫婦も他院で人工呼吸器装着の重度後遺症あり。母親が罹患後の廃用でのリハビリ目的で当院転院して来られたが、息子夫婦もいつ仕事の再開ができる状況かという身体状況であり、医療費の捻出が厳しいと無料低額診療事業申請希望。

コロナの影響で失業、再就職しても低収入。無料低額診療事業利用

【20代、女性、正社員、独居】

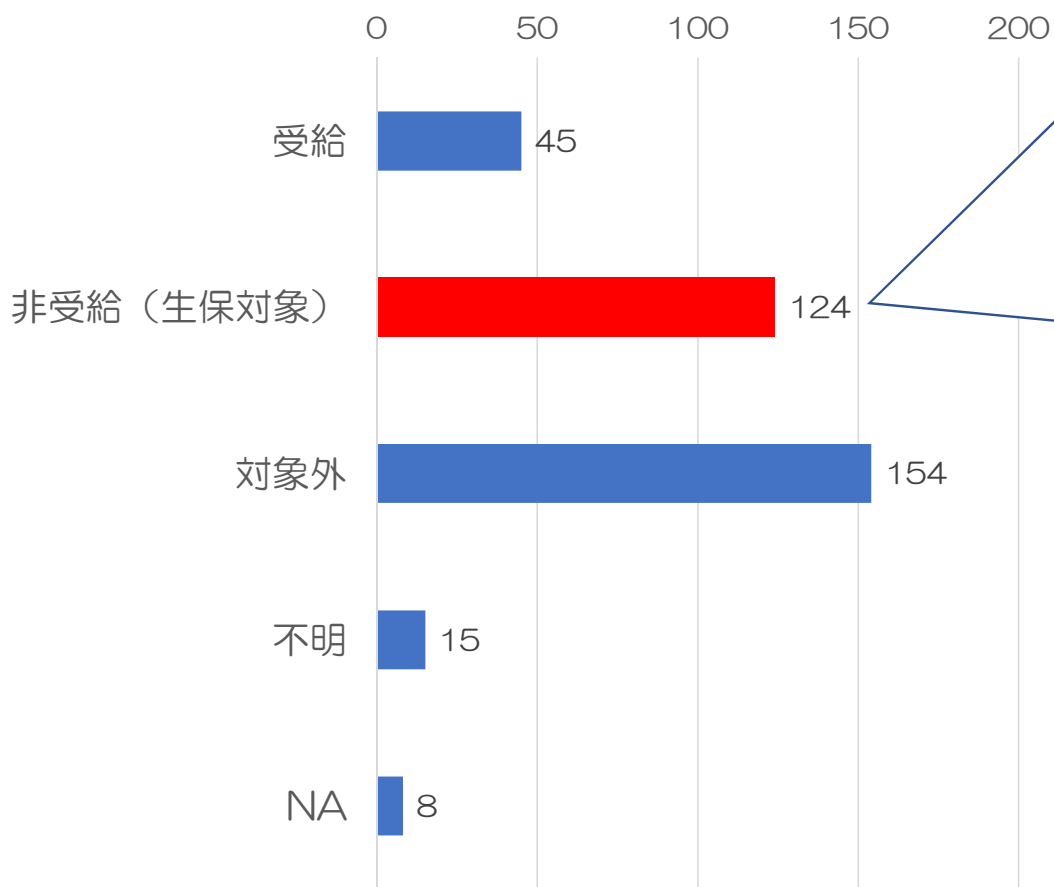
2021年11月に本人が相談に来室した。コロナに罹患し、その後遺症で全身のたるさがあり、10月中旬から仕事に行けていない。来月から収入がなくなる。傷病手当金を申請中。手当金がでるまで無料低額診療事業を利用。

事例に該当する事象 ※複数回答可



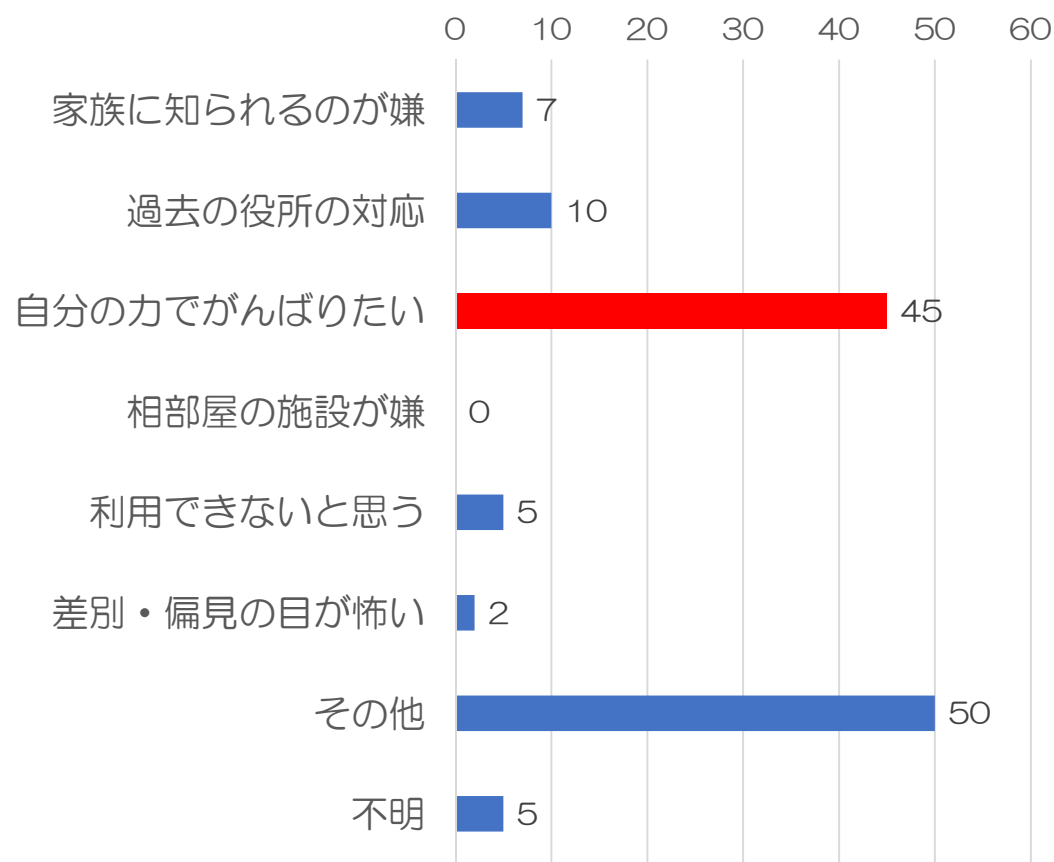
409事例から（経済的）困窮事例を抽出した346事例

生活保護の利用



非受給（生保対象）とは、生活保護受給対象でありながら受給を希望しなかった件数

生保非受給の方で受給しない理由



「自分の力でがんばりたい」※ 額面通りの理解でよいだろうか？「なぜ？」と問うていたら・・・。

《事例9》

■水際作戦の事例

【50代、男性、無職、独居】

元建設会社社員。病気で失業。回復して仕事探しをはじめた頃にコロナの感染拡大がはじまった。建設現場で日雇い労働をして食べつなく。しかし仕事中に高さ6メートルの足場から落下して骨盤骨折。入院できず、自分で痛みをこらえてしのいだ。後遺症で現在は松葉杖がないと歩けない。預貯金が尽きて家賃が支払えなくなり、ホームレスに。所持金は1000円余り。90万円借金があるが友人から借りているので自己破産できない。市役所に生活保護の申請に行ったところ「母親（別居）の預金通帳を見せないと生活保護は申請できない」と窓口で言われた。「母親は儉約家で年金も溜めており、貯金がないわけではない。しかし息子として母親にだけは迷惑をかけたくない」として生活保護の申請を諦めた。

本人にアパート契約と生活保護の申請に同行する旨を説明したが、市役所の水際作戦を真に受けていて、母親の貯金通帳がないと申請できないと思い込んでおり、最後まで生保申請の納得を得られなかった。結局、反貧困ささえあい基金から緊急生活費として2万円を支給。その後、連絡が途絶えて現在に至る。

《事例10》

■水際作戦の事例

【60代、男性、無職、妻と二人暮らし】

タクシー運転手をしていたが、新型コロナの影響で2020年5月に突然解雇。その後、脳梗塞を発症。退院後も手足や指先にしびれが残り、手先を使う仕事や細かい仕事ができなくなる。さらに、白内障手術や大腸ポリープ切除などで、医療費もかさみ預貯金が底を尽きる。薬代だけで月1万円。ハローワークを通じて仕事探しをするも、年齢要件や脳梗塞の後遺症から面接で落とされる。この間、社会福祉協議会から合わせて200万円を借り入れてしのいできたが、それも終了。妻もパートをはじめたがその収入月6万円。

市役所に生活保護の相談に行ったところ、担当者に「車があると無理」と言われた。アパートは坂の一番上にあり、近所に買い物できる店がない。妻は腰椎ヘルニアで下肢が不自由。車がないと生きていけないので困っている。